

米づくり情報（NO. 6）

令和 7 年 9 月 1 日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
8	1	27.8	29.1	32.5	33.5	24.2	25.4	34.7	5.5	34.9	39.5
	2	27.8	28.0	32.5	31.2	24.2	25.3	38.7	122.5	33.4	8.9
	3	27.5	28.5	32.2	32.4	24.1	25.1	44.0	47.5	30.8	34.9
	4	27.1	28.9	31.7	34.4	23.7	24.7	46.2	0.0	28.9	50.3
	5	26.6	28.1	31.2	33.9	23.1	24.4	46.9	9.0	28.0	34.5
	6	26.0	28.9	30.6	33.8	22.5	25.2	55.9	4.0	32.6	40.8

【8 月 1 半旬～8 月 6 半旬の気象概況】

- ・平均気温は平年より高く、月を通して高温傾向。
- ・降水量は 2・3 半旬で多雨となり、他は少雨となり、月全体での降水の変動が大きかった。
- ・日照時間は 2 半旬で寡照だったが、月全体では平年よりやや多照。

2 生育状況

項目 品種(設置場所)	移植 日	年 次	草 丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉 齢 (L)	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 東山代町脇野	6/1	本年値	出穂期8月10日				出穂は平年より5日遅い。
	5/30	平年値 平年比(差)	出穂期8月5日 +5日				
ひなたまる 大坪町古賀	6/24	本年値	出穂期8月26日				※今年度調査開始のため、 平年値なし

（耕種概要）

- ・「夢しずく」「ひなたまる」の耕種概要は稲作情報 No.1～3 を参照。

【情報田ウンカ類調査結果（25 株あたり）】（調査日 8 月 26 日）

品種	地域	移植日	トビイロ ウンカ (成虫)	セジロ ウンカ (成虫)	ヒメトビ ウンカ (成虫)	ウンカ類 (幼虫)
ひなたまる	大坪	6/24	0	0	0	10

3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（8月27日）

本年産水稻の生育状況（8月27日）

移植日	項目 品種	年次	草 丈 cm	茎 数 本/m ²	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年または前年との比較)
6月18日	夢しずく	本 年 平 年 平年比(差)	出穂期:8月16日 8月17日 -1			【気象】 8月20日～8月26日まで ◆平均気温…1.9℃高い ◆日照時間…長い(平年比132%) ◆降水量…少ない(平年比2%) 【生育】 ◆草丈 「さがびより」は高く、「ヒヨクモチ」はやや高い。 ◆茎数 「さがびより」、「ヒヨクモチ」のどちらも多い。 ◆葉齢 「さがびより」の主稈葉数は平年並み。 「ヒヨクモチ」の葉齢は平年並み。 ◆葉色(SPAD 値) 「さがびより」はやや淡い、「ヒヨクモチ」は淡い。 ◆主茎の葉耳間長は「さがびより」14.6cm、「ヒヨクモチ」9.5 cmとなっている。 「さがびより」の出穂期は平年並みから1～2日早いと見込んでいる。	
	ヒノヒカリ	本 年 平 年 平年比(差)	出穂期:8月26日 8月27日 -1				
	ひなたまる	本 年 前 年 前年比(差)	出穂期:8月25日 8月25日 ±0				
6月20日	さがびより	本 年 平 年 平年比(差)	98.6 92.9 106	494 437 113	止葉葉位 15.2 15.0 (+0.2)	35.0 35.7 (-0.7)	
	ヒヨクモチ	本 年 平 年 平年比(差)	81.6 78.4 104	659 515 128	15.8 15.6 (+0.2)	34.6 36.8 (-2.2)	
留意点	○「ひなたまる」、「ヒノヒカリ」は出穂期を迎えており、「さがびより」もまもなく出穂期を迎える。穂揃い期以降は間断灌水に切り替え、土壌を固めるとともに根の活力維持を図る。 ○「ヒヨクモチ」は引き続き穂揃い期までは浅水管理を行い、実肥は施肥基準に基づき適切に施用する。 ○病害虫は農業技術防除センターの発生予察情報及び圃場を確認し、適期防除に努める。						

【農試作況圃場における幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平年	本年(平年差)	平年
夢しずく	7/26(-2)	7/28	8/16(-1)	8/17
ヒノヒカリ	8/4(±0)	8/4	8/26(-1)	8/27
ひなたまる	8/4(+2)	8/2	8/25(±0)	8/25
さがびより	8/8(-1)	8/9	未	9/1
ヒヨクモチ	8/12(-2)	8/14	未	9/5

4 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上中旬移植）

- ・5月上中旬移植の夢しずくは、現在、収穫期を迎えている。
- ・収穫1週間前までの間断灌水により子実の充実確保に努める。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・糊熟期を迎えている。
- ・収穫1週間前までの間断灌水により子実の充実確保に努める。

3) 普通期水稻「ひなたまる」

- ・出穂期を迎えている。
- ・紋枯病が多発する圃場や、多肥・過繁茂の圃場は発生消長によっては被害が大きくなる可能性があるため、基幹防除と発生状況に応じた臨機防除を徹底する。

<収穫適期の目安「ひなたまる」>

★従来品種に比べて登熟日数が長いため、早刈りを行うと粒の肥大が不十分となり、青未熟粒の混入によって品質の低下や収量の減少を招くおそれがある。

収穫時の留意点：

- ① 「ひなたまる」は登熟後期（出穂後49日、積算気温約1,200℃）まで収量が向上する特性があるため、目安より早い収穫は避けること。
- ② 黄化粳率が約80～90%程度を目安に適期収穫を行い、早刈りや刈遅れを防ぐ。
- ③ 粳水分25%以下を目安に収穫する。
- ④ 早刈りは玄米の充実不足により「青未熟粒」や「死米」が発生しやすく、食味の低下や収量減少につながるため避ける。
- ⑤ 遅刈りは「胴割米」や「茶米」等が発生しやすく、品質低下の原因となるため、刈遅れに注意する。

【 ひなたまる刈取り判断指標 】

積算温度	980－1200℃
出穂後日数	40－49日
粳水分の範囲	24－25%
粳黄化割合	80－90%

また、一般的な成熟期の穂相は以下のとおりですが、年次や生育量によって差があるため、穂相のみで成熟期を判定するのは難しい場合があります。したがって、上記の点に十分留意したうえで、適期の収穫を判断してください

- ・穂軸の先端（穂先）から1～2cmが枯れている
- ・穂元に青粳が5～7粒残っている
- ・粳を爪で押しても潰れなくなった状態

4) 共通

(台風対策)

- ・台風接近時 → 風による稲体の損傷を少なくするため深水管理とする。
いずれの品種も、茎葉の繁茂度が高く、水分の蒸散量が著しい時期にあたるので、必ず深水・湛水を行う。
- ・台風通過後 → 茎葉の損傷により根の老化が進むことがあるので、台風通過後は必ず新しい水と入れ替えて、こまめに間断灌水を行い、根の機能維持・生育回復に努める。
水田に海水流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と入れ替える。できれば掛け流しを行って除塩するか、少なくとも2～3回は水を入れ替え、生育回復に努める。
※台風通過後は受光体制が乱れ、ウンカや白葉枯れ病等が発生しやすくなるため、トビイロウンカの発生には十分注意し、場合により薬剤防除を検討する。

(主な病害虫の防除適期)

病害虫名	稲のステージ 出穂前後日数	止 葉 出 葉 穂 ば ら み 後 期 出 穂 期 穂 揃 期 乳 熟 期							
		-15	-10	-5	0	+5	+10	+15	+20
紋枯病	並発生の場合	←→							
	多発生の場合	←→			←→				
穂いもち	並発生の場合			←→					
	多発生の場合			←→		←→			
カメムシ類	並発生の場合							←→	
	多発生の場合					←→		←→	

図3 紋枯病、穂いもち、カメムシ類の防除適期

(斑点米カメムシ)

- ・県内全域で発生が見られ、斑点米の発生による等級低下が懸念される。
- ・8月6日に農業技術防除センターより注意報が出されており。警戒が必要。
- ・圃場周辺の畦畔、休耕田、空き地等の雑草は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となるため、除草作業を出穂10日前までに行う。出穂直前以降の除草は水田内への斑点米カメムシ類の侵入を助長するため避ける。
- ・薬剤防除は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に行うが、発生が多い圃場では穂揃い期と乳期（穂揃い期の7～10日後）の2回薬剤防除を行う。

(紋枯病)

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・近年、多発傾向にあるため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展（垂直進展）する時期

に防除を徹底する。（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前を目安とする）

- ・病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。
- ・今年度から作付けしているひなたまるは紋枯病に弱いため、基幹防除と発生状況に応じた臨機防除を徹底する。



(イネカメムシ)

- 管内でも発生が確認されている。
- イネカメムシは、他の斑点米カメムシ類と異なり、水稻の出穂始めから籾を吸汁して不稔及び基部斑点米を生じさせる。そのため、出穂前にイネカメムシの発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、発生状況に応じて出穂期の防除を行う。



(いもち病)

- 8月上旬は例年に比べ曇雨が多く、いもち病の発生好適条件であったため、本田で病斑の発生が認められたら臨機防除を検討し、特に上位葉に病斑が見られた時は速やかに防除を実施する。

(ウンカ類)

- トビイロウンカは6月16日～23日、8月4日に飛来が確認されている。
- 今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

トビイロウンカ防除適期

1回目 8/5～8/11

2回目 9/5～9/8

コブノメイガ防除適期

1回目 8/4～8/13

2回目 9/8～9/18



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第3版、2025年8月14日作成）



図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第2版、2025年7月18日作成）

- 今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し（ウンカは稲の株元に定着します）。発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 :真横
トビロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 :真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 :斜め後ろ

		トビロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
成虫				
幼虫	若齢			
	中齢～老齢			

「ほ場の調査」と「本田防除」のポイント

防除にあたっては、トビロウンカはイネの株元に生息しているので、薬剤が株元まで十分かかるよう、ていねいに散布する。

各時期別のポイントは以下のとおり（普通期水稻の場合）。

7月下旬～8月下旬頃（防除適期の把握と基幹防除）

○調査：幼虫などの発生状況を調査する。

●防除：第1または2世代幼虫ふ化揃い期に防除を行う。



8月下旬～9月中旬頃（臨機防除の必要性の判断）

○調査：生き残ったウンカがいないか調べる。なお、調査日がウンカの卵期間（約7～8日間）と重なった場合、発生を見逃すことになるので、複数回調査する。

例えば調査時に、第2世代成虫があちこちに生き残っているのであれば、その10～14日後に第3世代幼虫が多数ふ化してくると予測する。



9月上旬～9月下旬頃（臨機防除）

○確認調査：あらかじめ予測された時期に、第3世代幼虫の発生状況を調べる。

●防除：幼虫が多数ふ化しているのであれば、早急に臨機防除を行う。対応が遅れると、坪枯れの被害が発生する。

令和7年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

